

県系人の歩み

故郷思い支え続ける

1900年、沖縄県初の海外移民26人がハワイの地に降り立ちました。彼らは白人が経営するサトウキビのプランテーション（大規模農場）で契約労働者として厳しい労働に従事しました。1903年には第2回ハワイ移民として、海外移民の父・當山久三率いる40人が来島。以降、沖縄からの移民は増え続け、戦前2万人もの県民がハワイに移住しました。彼らは懸命に働いて故郷に送金し、沖縄の経済を支えました。

太平洋戦争が始まると、アメリカ全土で日系人の排斥運動が激しくなりました。苦しい立場に追いやられた日系人は、アメリカへの忠誠を示すために米軍へ志願。ハワイからも多くの県系2世が戦場へ赴きました。

戦後、地上戦で焼け野原となった沖縄を救お

うと、各国の県人会から救援物資が寄せられました。いち早く手を差し伸べたのはハワイの県系人でした。衣類や書籍、文房具などの日用品だけでなく、生きた豚550頭を届けました。寄付を募り5万ドルもの大金を集め、アメリカ本国で豚を購入して届けたのです。翌年には800頭



ハワイ県系人の活動を支えるため建設された「ハワイ沖縄プラザ」＝米ハワイ州ワイパフ



ハワイ県人会から沖縄に送られた物資（那覇市歴史博物館提供）

のヤギを贈りました。ハワイからの豚は食糧難に苦しむ県民を救い、養豚業を復興させ、沖縄の食生活を守りました。その後もハワイの県系人は文化や教育の面からも支援を続け、沖縄の復興に力を尽くしました。

1985年、沖縄県とハワイ州は姉妹提携を結び、さまざまな分野で交流を深めてきました。2014年には父方の祖父母が沖縄出身のデービッド・イゲ氏がハワイ州知事となりました。県人会のハワイ沖縄連合会の活動も活発で、ウチナーンチュとして文化の継承に力を入れています。

ステキな先輩!

世界の若者の懸け橋に

沖縄国際大学4年 金城しずくさん (23)

2020年11月、世界各国の若い県系人80人がオンラインで絆を深めるイベントが行われました。運営に携わった金城しずくさん(23)＝糸満市＝は「ハワイ留学で、現地のウチナーンチュネットワークに感動した。世界の若者ウチナーンチュをつなぐ懸け橋になりたい」と力を込めます。

沖縄国際大学で英語と沖縄について学んできた金城さんは20年2月に語学留学のためハワイ・オアフ島を訪れました。ホームシックに悩む中、訪れたショッピングセンターで「ウチナーンチュに見える団体」に遭遇。思い切って話し掛けるとやはり県系人で、若者が立ち上げた沖縄コミュニティを

紹介してくれました。「コミュニティの若者は県系4世、5世が多く、会話も英語中心。でもウチナーンチュであることに誇りを持ち、積極的に沖縄文化を継承していた」と振り返ります。

帰国後も世界の若い県系人と交

流を深めている金城さん。今後、ウチナーンチュネットワークを強めるためには県内の若者の力が必要だと感じています。「私たちも彼らに負けないうち沖縄の文化や言葉を学び、発信していきましょう」と呼び掛けました。



金城しずくさん(右から2人目)とハワイの沖縄コミュニティのメンバー

ハワイの美味しいレシピ ポイ



ハワイの伝統的な主食はタロイモです。中でもタロイモをふかしてペースト状にした「ポイ」はハワイのソウルフードです。今回は沖縄でも手に入る田芋を使ったポイのレシピを紹介します。

材料 (4人分)

田芋 …… 4つ
水 …… 適量

- 1 柔らかくなるまで田芋を蒸す
- 2 田芋の皮をむく
- 3 少しずつ水を加え、すりこぎでつぶしながら練る
- 4 ペースト状になったら完成

ひとくち一口メモ

ポイは専用の木のボードと石で練りつぶすのが伝統的な作り方です。ポイ作りはなかなかの力仕事です。ポイ作りは主に男性が担当しました。ポイとおかずをいっしょに食べるのがハワイ流。ライスの代わりに食卓に並べてみてください。

